

ニッセイ インターネットアンケート ～「夏休みの過ごし方」について～

日本生命保険相互会社は、“子育ての壁や不安がない社会”をみんなで考え、共に作っていく「NISSAY ペンギンプロジェクト」※の一環で、「夏休みの過ごし方」に関するアンケートを実施いたしました。（※特設サイト:<https://www.nissay.co.jp/kaisha/penguin/>）

《アンケート概要》

- 実施期間：2024 年 7 月 1 日（月）～7 月 7 日（日）
- 実施方法：インターネットアンケート（「ずっともっとサービス」のサンクスマイルメニュー）
- 回答者数：7,922 名（男性：3,881 名、女性：3,891 名、性別回答なし：103 名）

＜年代別回答者数＞

[名]

年代							合計
	～20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代～	
男性	210	433	636	1,222	880	500	3,881
女性	284	535	634	1,134	844	460	3,891
合計	494	968	1,270	2,356	1,724	960	
占率	6.2%	12.2%	16.0%	29.7%	21.8%	12.1%	

《アンケート結果のポイント》

ポイント①

質問 1～2

【夏季休暇について】

- 夏休みを「取得する」方は 75.6%となった。
- 取得する方の平均取得日数は、約 6.3 日となった。

ポイント②

質問 3～9

【夏季休暇の過ごし方について】

- 夏休みの過ごし方について「自宅・自宅周辺で過ごす」と回答した方は 38.7%となった。
- 仮に予算等の制約がない場合の理想の過ごし方は、「海外・国内旅行」と回答した方が 74.8%となった。
- 理想の過ごし方が実現しない理由として「予算がない」と回答した方が 43.2%、「時間がない」と回答した方が 33.2%となった。

ポイント③

質問 10～13

【子どもの夏休みについて】

- 夏休みに期待することとして、全体としては「普段できない体験をしてほしい」と回答した方が 39.8%となり、年齢別では、小学生以下では「普段できない体験」、中高生では「学習」「健康・規則正しい生活」、大学生等では「健康・規則正しい生活」を重視している傾向が見られた。
- 最も長い時間を過ごす場所として「自宅」と回答した方が 73.2%となった。
- 夏休み中の子育てについて、77.0%の方が負担を感じており、そのうち「食事の用意（お弁当を含む）」と回答した方が 53.4%となった。
- 負担軽減のための外部サービスを 14.0%の方が導入しており、その内訳として「家事代行」「配食・ミールキット」と日々の生活を支えるサービスが 58.1%となった。
- 今後のサービス導入について、「希望しているサービスはない」41.1%、「家事代行」24.3%、「配食・ミールキット」12.4%と続いた。
- 現在導入していない理由として「価格が高い」と回答した方は 42.8%となった。

【夏季休暇について】

質問 1～2 について＜無職、専業主婦（主夫）、自営業、経営者・役員、パート・アルバイト、学生除き＞で集計

質問 2～5 について＜質問 1 で「夏休みを取得する」と回答いただいた方＞で集計

＜アンケート結果のポイント＞

- 夏休みを「取得する」方は 75.6%となった。
- 取得する方の平均取得日数は、約 6.3 日となった。

質問 1 今年、夏休みを取得しますか？（回答者数：4,204 名）

■夏休みを取得するか

(%)		
順位	内容	占率
1	取得する	75.6
2	取得しない・取得できない	24.4

質問 2 今年、夏休みを何日取得しますか？ ※土曜日・日曜日・祝日含み（回答者数：3,149 名）

■夏休みを何日取得するか

平均日数	6.3日
------	------

<アンケート結果のポイント>

- 夏休みの過ごし方について「自宅・自宅周辺で過ごす」と回答した方は 38.7%となった。
- 仮に予算等の制約がない場合の理想の過ごし方は、「海外・国内旅行」と回答した方が 74.8%となった。
- 理想の過ごし方が実現しない理由として「予算がない」と回答した方が 43.2%、「時間がない」と回答した方が 33.2%となった。

質問 3 今年の夏休みは何をして過ごす予定ですか？（回答者数：4,425 名）

■夏休みを何をして過ごすか

(%)

順位	内容	占率
1	自宅・自宅周辺で過ごす	38.7
2	国内旅行（宿泊あり）	25.2
3	近場のレジャー（日帰り）	15.3
4	帰省	15.0
5	海外旅行	3.7
6	その他	2.1

質問 4 もし資金面や時間面等での制約がないとしたら、夏休みをどのように過ごしたいですか？（回答者数：4,330 名）

■理想の夏休みの過ごし方は

(%)

順位	内容	占率
1	国内旅行（宿泊あり）	41.5
2	海外旅行	33.3
3	自宅・自宅周辺で過ごす	13.4
4	近場のレジャー（日帰り）	6.5
5	帰省	4.1
6	その他	1.2

質問 5 質問 4「理想の夏休みの過ごし方」が実現しない理由は何ですか？（回答者数：3,813 名）

■理想の夏休みの過ごし方が実現しない理由は

(%)

順位	内容	占率
1	予算がない	43.2
2	時間がない	33.2
3	その他	10.6
4	体力がない、体調が悪い	8.1
5	家族の同意が得られない	4.9

【子どもの夏休みについて】

質問 6～13 について＜子育て中の子どもが「いる」と回答いただいた方＞で集計

質問 9 について＜夏休み中の子育てについて「負担に感じることは無い」と回答いただいた方除き＞で集計

質問 11 について＜子育ての負担を軽減するサービスについて「導入しているサービスはない」と回答いただいた方除き＞で集計

＜アンケート結果のポイント＞

- 夏休みに期待することとして、全体としては「普段できない体験をしてほしい」と回答した方が 39.8%となり、年齢別では、小学生以下では「普段できない体験」、中高校生では「学習」「健康・規則正しい生活」、大学生等では「健康・規則正しい生活」を重視している傾向が見られた。
- 最も長い時間を過ごす場所として「自宅」と回答した方が 73.2%となった。
- 夏休み中の子育てについて、77.0%の方が負担を感じており、そのうち「食事の用意（お弁当を含む）」と回答した方が 53.4%となった。
- 負担軽減のための外部サービスを 14.0%の方が導入しており、その内訳として「家事代行」「配食・ミールキット」と日々の生活を支えるサービスが 58.1%となった。
- 今後のサービス導入について、「希望しているサービスはない」41.1%、「家事代行」24.3%、「配食・ミールキット」12.4%と続いた。
- 現在導入していない理由として「価格が高い」と回答した方は 42.8%となった。

質問 6 お子さまの夏休みに最も期待することは何ですか？（回答者数：2,010 名）

■子どもの夏休みに最も期待することは？

(%)

順位	内容	全体								
			未就学児	小学生	中学生	高校生・ 高等専門学校生	専門学校生	短大・大学生	大学院生	その他
1	普段できない体験をしてほしい	39.8	53.2	42.3	25.2	24.0	8.3	40.7	23.1	19.5
2	健康に過ごしてほしい、規則正しく生活してほしい	35.4	41.4	33.5	31.5	27.2	50.0	34.7	46.2	39.0
3	学習を頑張してほしい	12.7	1.6	13.9	25.2	31.4	16.7	9.7	0.0	2.6
4	家事を手伝う等、生活力を身につけてほしい	4.8	1.1	5.4	4.2	7.1	8.3	8.5	23.1	9.1
5	部活や習い事を頑張してほしい	4.5	0.8	3.8	13.9	10.2	0.0	1.6	0.0	1.3
6	その他	2.7	2.0	1.0	0.0	0.0	16.7	4.8	7.7	28.6

質問7 お子さまが夏休みに過ごす時間が最も長い場所はどこですか？（回答者数：2,008名）

■子どもが夏休みに最も長時間過ごす場所は？

(%)

順位	内容	全体								
			未就学児	小学生	中学生	高校生・ 高等専門学校生	専門学生	短大・大学生	大学院生	その他
1	自宅(保護者在宅)	56.4	59.9	53.7	60.9	59.5	58.3	49.6	58.3	41.6
2	自宅(保護者不在)	16.8	1.9	16.5	30.6	27.6	16.7	31.2	25.0	15.6
3	保育園・幼稚園・こども園	9.9	30.0	0.4	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	1.3
4	学童	5.3	1.7	18.7	0.4	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0
5	その他	5.0	0.8	1.6	1.7	5.0	16.7	15.2	16.7	35.1
6	祖父母を含む親戚の自宅	3.6	5.1	4.4	2.6	1.1	8.3	1.2	0.0	5.2
7	学習塾	1.6	0.0	2.2	3.0	4.3	0.0	0.4	0.0	1.3
8	学童・学習塾以外の習い事	0.7	0.0	1.4	0.9	1.1	0.0	0.8	0.0	0.0
9	地域のコミュニティ(児童館・支援センターなど)	0.6	0.6	1.0	0.0	0.7	0.0	0.8	0.0	0.0
10	フリースクール	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0

質問8 夏休み中の子育てで負担に感じることはありますか？（回答者数：2,001名）

■夏休み中の子育てを負担に感じるか？

導入しているサービスがある	14.0%
---------------	-------

質問9 夏休み中の子育てで最も負担に感じることは何ですか？（回答者数：1,543名）

■最も負担に感じることは何か？

(%)

順位	内容	占率
1	食事の用意(お弁当を含む)	53.4
2	生活リズムの維持、健康管理	18.3
3	子どもに合わせた保護者のスケジュール調整(仕事等)	13.8
4	学習の補助	4.5
5	外出が増えることによる家計ひっ迫	3.2
6	旅行・イベントの用意(予約・引率等)	2.7
7	その他	2.6
8	習い事や学童への送迎	1.4

質問10 質問9の負担を軽減するために導入しているサービスはありますか？（回答者数：1,934名）

■子育ての負担を軽減するために導入している外部サービスはあるか？

導入しているサービスはない	86.0%
---------------	-------

質問 11 何のサービスを導入していますか？（回答者数：270 名）※複数回答可

■何のサービスを導入しているか？

(%)

順位	内容	占率
1	配食・ミールキット	33.7
2	家事代行	24.4
3	子どものみで参加できるイベント(サマーキャンプ等)	22.2
4	その他	14.4
5	送迎代行	9.3
6	ベビーシッター	3.7
7	家庭教師	3.7
8	導入しているサービスはない	0.0

質問 12 今後導入してみたいサービスはどれですか？（回答者数：1,966 名）

■今後導入したいサービスは？

(%)

順位	内容	占率
1	希望しているサービスはない	41.1
2	家事代行	24.3
3	配食・ミールキット	12.4
4	子どものみで参加できるイベント(サマーキャンプ等)	12.3
5	家庭教師	3.4
6	送迎代行	3.0
7	ベビーシッター	2.2
8	その他	1.4

質問 13 そのサービスを導入しない理由は何ですか？（回答者数：1,839 名）

■導入していない理由は？

（％）

順位	内容	占率
1	価格が高い	42.8
2	サービスについて調べたことがない・調べる時間がない	17.0
3	他人に頼ることに抵抗がある	14.1
4	納得できる質のサービスを提供している事業者がない	11.2
5	その他	7.7
6	居住地付近でサービスを提供している事業者がない	6.5
7	家族に反対されている	0.7

<ニッセイ基礎研究所 生活研究部 上席研究員 久我 尚子^{くが なおこ}のコメント>



夏休みには普段できない体験を！と思いながらも、今年の夏休みは物価高や円安の影響から、慎重な計画を立てる家庭が多いようです。海外旅行を控え、国内旅行や日帰りレジャー、帰省など、予算内で楽しめる現実的な選択が主流となっています。

また、夏休み中の子どもの食事の用意を負担に感じる親が多いものの、家事代行サービスの利用には消極的な傾向が見られました。その理由は、価格の高さに加えて、他人に頼ることへの抵抗感もあるようです。家庭の負担軽減には公的サービスの普及や補助金など行政支援の強化も期待されるようです。なお、NISSAY ペンギンプロジェクトでは「みんなで子育て」を掲げ、子育てを支えるさまざまな取り組みを進めています。

<「NISSAY ペンギンプロジェクト」について>

核家族の進行や女性の社会進出など子育て環境が大きく変化している中、子育ての壁や不安を当事者だけに留めるのではなく、次世代に向けて社会全体で考えるべき問題として捉え、“子育ての壁や不安がない社会”をみんなで考え、共に作っていく「NISSAY ペンギンプロジェクト」を2022年4月より推進しています。

具体的には、SNS や WEB でのさまざまな情報発信を通じて社内外の風土醸成を図るとともに、当社の理念に賛同いただき、ともに取組を行う企業・自治体を増やしていき、子育て支援に関する新たな商品・サービス等の価値提供等、社会で支える仕組み作りにつとめてまいります。

(ご参考:NISSAY ペンギンプロジェクトのステートメント)

<ロゴやステートメントに込めた思い>

群れ全体で協力して子どもを育てる習慣のある“ペンギン”をモチーフに、「みんなで子どもを育てる社会」の実現を目指すプロジェクトです。

コウテイペンギンは父親と母親が交互に卵を温め、両親が揃って狩りに出かけるときには、クレイシと呼ばれる集団を作って親ではない個体がヒナを守ります。まさに、「子育てしやすい社会をみんなでつくる」を体現している動物であり、当プロジェクトのモチーフに相応しいと考えました。

子育てしやすい社会を、みんなで。

未来をつくるのは、いつだって子どもたち。けれど、この国では

多くの人が、子どもを育てることの難しさに直面しています。

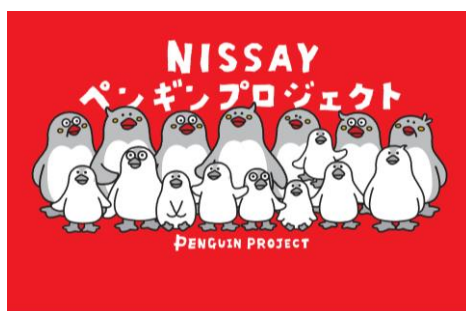
みんながもっと自分らしく生きられる明日を叶えるために。

子どもたちが未来に向かって伸びやかに、自分の可能性をひろげることができるように。

群れ全体が協力しあって子どもを育てるペンギンのように、

子育ての壁や不安のない社会を、みんなで手を取り合ってつくっていこう。

子育てに頑張るすべての人を、そして子どもたちの未来を、私たちは全力でサポートします。



以 上

2024-1323G, ライフサポート事業部